

翼三郎旧蔵文書のうち 「海防図」（パネル展示の実物資料）

嘉永6年(1853)、浦賀（現神奈川県横須賀市）にアメリカの使節ペリーが来航、翌年には下田（現静岡県下田市）と箱館（現北海道函館市）を開港することなどを定めた日米和親条約が結ばれました。ペリー来航の情報は紀州へも伝えられ、多くの人びとが衝撃を受けました。

嘉永7年の9月から10月には、ロシアの使節プチャーチン率いるディアナ号が紀州に立ち寄り、加太（現和歌山市加太）沖に碇泊しました。このとき、紀州藩は、かねて取り決めていた計画に基づき、約1万人を動員して沿岸警備を行いました。

展示している「海防図」は、和歌山城周辺に設けられた^{だいば}台場・^{のろしば}狼煙場の位置や地勢を示した地図です。

紀州藩は城下周辺を8つの地区に分け、外国船の来航に備える計画を定めていました。取り決められた区割り・担当家臣・配置人数は以下のとおりです。

大川浦～田倉崎	水野丹波守	1, 445人	田倉崎～外浜	金森孫右衛門	1, 275人
外浜～雑賀崎	岡野平大夫	1, 007人	雑賀崎～和歌浦中	三浦長門守	1, 593人
和歌浦中～和歌浦洲崎	久野丹波守	1, 267人	毛見浦～藤白北境	加納平次右衛門	1, 208人
藤白北境～塩津浦	佐野伊左衛門	930人	塩津浦～大崎浦観音崎	戸田金左衛門	1, 112人